

風水害に備えて

近年、梅雨前線の停滞や台風の接近などを原因として、同じ場所に大量の雨を降らせる「集中豪雨」や、大気の状態が不安定となって積乱雲が発達し、短時間に局地的に激しい雨を降らせる「局地的大雨（ゲリラ豪雨）」が発生する割合が増えています。柳川市でも、過去に大雨による河川のはん濫で、浸水被害が発生したり、暴風により電柱が倒れたり、農水産物の被害が発生したりしています。

集中豪雨や局地的大雨から身を守るには



短時間で危険な水位のおそれ
河川、用水路などは、激しい雨が降ることや周りから雨が流れ込むことで、短時間で危険な状態となります。



排水路・側溝の排水能力を超える大雨
排水路・側溝の排水能力を超える豪雨によって、土地・建物等の浸水が発生する現象（内水はん濫）が頻発しています。



離れた場所の雨にも注意
自分のいる場所で強い雨が降ってなくても、上流で降った雨が流れてきて、危険な状態になる場合があります。

！ 次のような前兆現象を感じたら速やかに避難するようにしましょう。



- 雷鳴や稲妻を確認したら建物内へ避難する。
- 大粒の雨やひょうが降り始めたら建物内へ避難する。
- 急に冷たい風が吹き始めたら注意する。
- 川の水かさが増えたり、濁ってきたらすぐ避難する。
- 川の近くで警告のサイレン音がしたらすぐに川から離れる。

活用しよう！ 気象庁のホームページ
気象庁HPの、「降水ナウキャスト」情報は最新状況から1時間先までの5分毎の降水の強さを予報します。
「レーダー・ナウキャスト(降水・雷・竜巻)」
<https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

雨の強さと降り方

1時間雨量	10~20mm やや強い雨	20~30mm 強い雨	30~50mm 激しい雨	50~80mm 非常に激しい雨	80mm以上 猛烈な雨
人が受けるイメージ	ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返すように降る。	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く。)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。
想定される被害	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	側溝や、小さな川があふれる。	道路が川のようになる。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。	大規模な災害が発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。

風の強さと被害の程度

風速	10~15m やや強い風	15~20m 強い風	20~30m 非常に強い風	30m以上 猛烈な風
人が受けるイメージ	風に向かって歩かなくなる。傘が飛ばない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。	何かにつかまっていられない。	屋外での行動はきわめて危険。多くの樹木が倒れる。
想定される被害	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	電線が嘔り始める。看板やトン板が外れ始める。	木の幹が折れたり根が揺るぎない木が倒れ始める。屋根瓦、屋根材が飛散するものがある。	電柱や外灯も倒れるものがある。ブロック塀で倒壊するものがある。

警報と注意報

大雨注意報・洪水注意報	大雨警報・洪水警報	記録的短時間大雨情報	大雨特別警報
40ミリ以上になると予想される場合 大雨・長雨などにより、河川が増水し、災害(土砂災害や低地の浸水など)が発生するおそれがあるときに発表します。	60ミリ以上になると予想される場合 大雨・長雨などにより、河川が増水し、重大な災害(土砂災害や低地の浸水など)が発生するおそれがあるときに発表します。	110ミリ以上の降雨となる大雨 この情報が発表された地域では近くで災害の発生につながる事態が生じていることを意味しています。	数十年に一度の降雨となる大雨 浸水や土砂災害などの重大な災害が発生するおそれが著しく大きい状況が予想されるときに発表します。

大雨時は早めの避難を

危険が迫る前に早めの避難が必要です。避難場所への移動（水平避難）だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）も考えましょう。既に浸水しているなど、避難場所への移動が危険な場合は垂直避難を行い救助を待ちましょう。

避難場所への移動（水平避難）

浸水前なら

避難をするなら浸水前に早めの避難を！

高所への移動（垂直避難）

浸水後なら

浸水後も安全に自宅滞在が可能なら家屋や家財の被害軽減を！

危険な避難

×

浸水の中の避難は危険

非常に危険です

！ やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

- 長靴や裸足は危険です。運動靴をはきましょう。
- 長い棒を杖代わりにして、水の中の障害物に注意しましょう。
- マンホール等のふたが開いている場合があります。
- 歩ける深さの目安は膝下までです。流れが速い場合は非常に危険です。
- はくれないようお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。
- 切れた電線など、危険な場所には近寄らないようにしましょう。

竜巻から身を守る

竜巻は、発達した積乱雲に伴う強い上昇気流によって発生する渦巻き状の激しい突風です。短時間で、狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらすことがあります。

！ 接近している様子が見えたら直ちに退避行動を！

- 黒い雲の底が漏斗(ろうと)状に垂れ下がっている。
- 物やゴミ等が空中に巻き上がっている様子が見える。
- 「ゴーッ！」という音や、「キーン！」という音がする。
- 気圧の変化によって耳に異常を感じる。

1 頑丈な建物の中へ避難

- 避難する時は屋根瓦などの飛来物に注意する。
- 避難できない場合は、物陰やくぼみに身をふせ、両腕で頭と首を守る。

！ 危険 車庫・物置・プレハブへの避難は危険です

2 屋内でも窓や壁から離れる

- 窓、雨戸を閉め、カーテンも閉める。
- 家の中心部に近い、一階の窓のない部屋に移動する。
- 浴槽や丈夫な机の下に入り、両腕で頭と首を守る。

落雷から身を守る

落雷による感電死亡事故が毎年繰り返されています。正しい知識を身につけ速やかに安全な場所へ避難することが有効です。

！ 周囲が開けた場所は危険！ ！ 木のそばは危険！

- まわりより高い所に落ちやすい。落雷
- 落雷を受けた樹木等のそばに入ると、その樹木等から人体へ雷が飛び移ることがあります。(側撃雷) 木の下での雨宿り、電柱の下など。

1 雷鳴が聞こえたらすぐ避難

- 雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいてきます。屋外にいる人は安全な場所へ避難しましょう。

2 建物の中や自動車へ避難

- 建物や屋根付きの乗り物(自動車など)へ避難しましょう。

！ 危険 雨宿りで木の下に入るのは大変危険です

3 木や電柱から4m以上離れる

- 側撃雷の恐れがあるので、木や電柱から4m以上離れてください。右の図の三角の範囲内は比較的危険は小さいですが、なるべく早く屋内の安全な場所へ避難しましょう。
- 近くに避難する場所が無い場合は、姿勢を低くしましょう。

